

稲作農家のみなさまへ

追加の穂肥で 白未熟粒による品質低下を防ごう

◆8月以降はかなりの高温が予想されています

- 直近は最低気温、最高気温ともに平年より高い見込み(2週間気温予報)。
- 8月末まで平均気温は平年より高く、降水量は平年並みか少ない見込み、日照時間は多い見込み(1か月予報)。

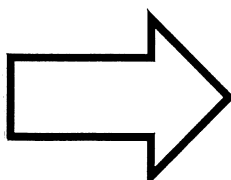
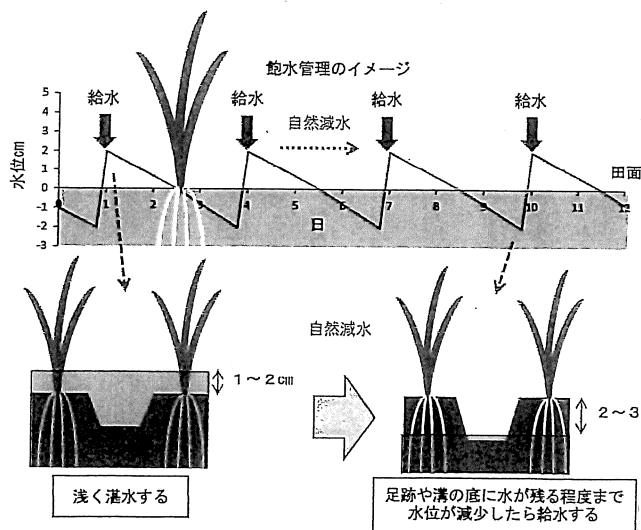
POINT

特に葉色が薄い・穂肥控えめ・低地力(水持ちが悪い)ほ場では、後期栄養確保のために、出穂直前であっても、下表をめやすに葉色・ほ場条件等を加味して追加の穂肥を施用!

～魚沼コシヒカリ(小千谷地区)追加穂肥のめやす～

栽培体系	資材	施肥量	化学窒素量
JA認証 (減化学肥料栽培)	越後の輝き有機30穂肥	8~10kg/10a (窒素成分1kg)	0.7~0.8kg
	越後の輝き有機50穂肥	(窒素成分1kg)	0.5~0.6kg
	味好2号またはみらい有機	15~20kg/10a (窒素成分1kg)	0kg

◆水管理は「飽水管理」の徹底を継続!



根腐れ防止

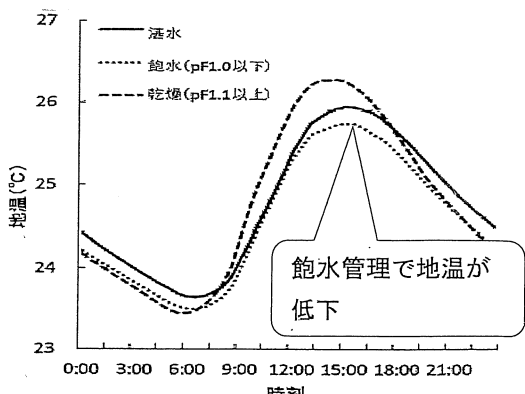


図 登熟期の水管理と時刻別地温の関係 (出典: H25、H26 作物研究センター)

フェーンや異常高温の場合は一時湛水で稲の蒸散を補助➡

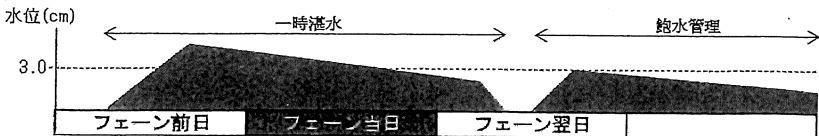


図 11-41 フェーンに対応する水管理のイメージ (フェーンが1日程度の短期の場合)